

違うことを認め合って

僕はインドネシアの看護大学を卒業して、2年半前に日本へ介護技能実習生として来日しました。今は、病院で介護の仕事を学んでいます。

病院では、患者様の日常援助をしています。口腔ケア、食事介助、水分摂取、移動介助、排泄介助、入浴、整容などのお手伝いをします。

インドネシアには、介護の仕事はあまりありません。なぜならば、介護は主に家族がしたり、病院では、看護師がするためです。病院での介護の仕事は、インドネシアの看護の仕事と似ています。しかし似ていないところもあります。

インドネシアでは、入浴介助はありません。体を拭くことが多く、それも家族がほとんど拭きます。ひげをそったり、歯を磨いたり、顔を拭いたりすることも家族が行います。多くの家族は、病院にずっと泊まって介護をします。

初めて日本の病院で働いて、家族が付き添っていないのを見て、僕はびっくりしました。しかしそれは、悪いことばかりではないと思っています。家族が付き添いをしないことで、私たち医療者は仕事に集中できます。患者さん中心にケアができるのでとてもいいと思います。

インドネシアで仕事をしていた時、家族が付き添っているといろいろなことに気を使いました。例えば、明け方のおむつ交換など、家族はまだ寝ているその隣でおむつを替えるので家族は起きてしまうのではないかと気にします。日本では、面会時間が短いので、それはさみしいし、少しかわいそうと思います。その分、自分たちが患者さんに寄り添わないといけないと思っています。

インドネシアは、助け合う家族がたくさんいます。例えばお父さんが病気になったとすると、お父さんの介護をするのは、妻、子どもたち、お父さんの兄弟姉妹、その配偶者、お母さんの兄弟、近所の人など。本当にたくさんの方が協力します。それに慣れている私は、日本の付き添いのない入院生活がびっくりしたのです。

今は日本の病院で働いていて、付き添いがいる方がいいか、いない方がいいか、どちらがいいか私はわかりません。日本のやり方もあって、インドネシアのやり方もあってと思います。どちらも正しいし、どちらも間違っていない。そのことは、争う話ではなく、そういう環境ということをお互い理解ができればいいと思います。

今回は、病院で僕が初めてびっくりしたことを話しましたがいろんな場面で日本とインドネシアが違うことがあります。インドネシアが違うことがあります。違うことを認め合っていくことも大切なことだと思っています。違うことを認め合っていくことも大切なことだと思っています。

インドネシアでも高齢化が進んでいます。介護が必要で家族が見ることができない場合は、看護師が自宅を訪問して介護をします。介護だけのケアワーカーとして働く人はまだまだ少ないです。私のインドネシアの町では、まだ若者が多く、介護のニーズは少ないです。でも私は介護の仕事が楽しい、好きなので日本でもっともっと勉強し、介護福祉士を目指したいと思っています。そして、日本でもインドネシアでも活躍できるといいと思っています。